

公益社団法人日本クラフトデザイン協会

事業評価委員会 議事録（親と子のふれあい交流活動）

日 時：平成29年3月 11日（土） 14:00～17:00

※第2回定例理事会の議題として審議された

場 所：日本クラフトデザイン協会事務局 （東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-5-15-408）

出席者：（理事）岡本昌子 磯谷晴弘 水野誠子 相川繁隆 海野えり子 菅野靖

西川雅典 采罌真澄

（監事）露木清勝 堀内雅博

●実施内容について

- ・担当理事から事業について報告がなされた。

今年度は夏期はミサンガ、冬期はアートヤーンの制作のワークショップを実施した。クラフト文化をワークショップとセミナーを通じて感じてもらうことを目的とした。

■夏期：「カンボジアのオーガニックコットンで作るミサンガ」

実施日：平成28年8月12日（金）

会 場：JXビル1F 「3×3Lab Future」

参加人数：42名

■冬期：「アートな糸を作る」

実施日：平成29年1月14日（土）

会 場：インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター

ミッドタウン・タワー5F

参加人数：46名

■第56回日本クラフト展に於ける広報展示

平成29年1月7日（土）～15日（日）

会 場：東京ミッドタウン・デザインハブ 第56回日本クラフト展会場

- ・夏期、冬期のワークショップ共に参加者に配布するためのテキストの作成を行った。内容は扱う素材の歴史や技法等図版を交えて作成した。テキストは参加者以外にも関係機関などに送付した。事業実施後も親子の話題を継続させるツールとして有効であった。また、こうした資料の蓄積は当協会の貴重な資料となっていく。今後も継続してほしい。

- ・参加者が目標の人数に達しなかったものの、夏のワークショップは募集開始から僅かの時間で定員を超える申込みがあった。結果的にはキャンセル（風邪等）によって参加者が減ってしまったが、当事業の周知が安定していることがうかがえる。

以下、各項目の担当理事からの報告と評価委員の意見等

●事業実施の準備体制について

- ・実行の準備と実施については会員による実行委員会を組織し行った
- ・委員会は計5回開催し、テーマの設定から具体的準備まで詳細を詰めることができた
～個々のプログラムの具体的な準備は適格に進められた。

●告知・募集の方法について

- ・夏期は2016エコキッズのプログラムとして開催し、先方の持っているネットワークに依るところが大きかった。冬期は募集チラシを作成、HPやメールマガジン、フェイスブックで広報を行った。冬期ワークショップについては広報は当会自力で行うようになる。他の機関の協力も含めて検討する必要があるのではないか。

●実施内容について

- ・夏期の実施はNPO法人NSCJの協力で、地雷被害者の方々が育て紡いだオーガニックコットンを使用することが出来た。また、レクチャーではNSCJの活動をお話いただいた。東京での暮らしとの大きな違いについて参加者各々が様々な感想を述べている。貴重な問題提起となったと感じる。
また、冬期には「紐・糸」そのものについてスポットを当てた。糸はどうやって出来ているのかを楽しく体験していただいた。
- ・全体の時間配分は概ね良かった。

●今後の展開について

- ・今後も素材、手法を変えて多彩なクラフトデザインの魅力を発信していくことが望ましい。また同素材でも工法等の違いを活かし様々な展開が可能である。
- ・現在のレクチャー+ワークショップというスタイルは、この事業の立ち上げから続いている。参加者により理解を深めてもらえるよう、これまでの実績を振り返り事業スタイルも検証した方が良い。
- ・何を伝えるか、よりも何を感じてもらえるか、参加者、特に子ども達が考えて、その後に発展できるようなプログラム作成を今後、さらに検討してほしい。

●その他

- ・アンケート等によると参加者の満足度は高く、本事業を通じてクラフトに親しみ、またそれをきっかけに親子の対話を深めていく目的は達成されたものとする。
- ・第 56 回日本クラフト展会場での広報展示は、会期中 9000 人に迫る入場者にこの事業の内容と意義を伝えることができた。
- ・今後は派生事業も含め、さらに広がりをもって事業を検討していく必要がある。

以上